

25年度環境教育インストラクター養成セミナー・フォローアップ研修会 実施報告書

平成25年12月15日

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

環境教育委員会委員長 岡本正義

- 目的：受講者が受講後の活動を通して、疑問に思ったことや問題点などの意見交換並びに環境教育事例を実施して、教育の考え方や進め方のレベルアップを図ること
- 日時：2013年11月24日（日） 14:15～16:40
- 会場：横浜市西区福祉保健活動拠点（通称フクシア）多目的研修室
- 参加者：6名 保坂哲夫（江戸川区）、日吉榮一（横浜市）、西田和子（相模原市）
穂谷野浩（小田原市）、池田 浩（横浜市）、杓谷信一郎（川崎市）
- 講師、アドバイザー：KECA 吉野榮一、岡本正義、高橋弘二、河野健三、嶋田和夫、
片野真琴 6名

○研修会の流れ

- ・参加者の自己紹介とこれまでの活動の報告と活動実施に伴う疑問、悩み等を紹介して頂いた。且つ、今回のフォローアップ研修会に期待することを話して頂いた。

Q：個人として活動する、例えば講座を開きたいが個人として企画、実施することに限界があるが、どうしたら良いだろうか？

A：いろいろな意見が出たが、なんらかの組織や団体に所属して、その中で人を集め企画、運営するようにすると良いだろう。

現在、所属している組織等の中で自ら声を上げて、人を集めることが肝要である。

Q：こどもの扱い方や集中させるには、どうしたら良いだろうか？

A：まず大事なことは、こどもの目線に立つことである。

話だけでは、すぐ飽きてしまうので、こどもを参画させるゲーム、体験や実験などの工夫をする。

プログラムの中に山を作って、変化を作ることが大事である。例えば、45分授業を2コマ実施する場合には、コマごとに山場を作って、こどもを惹きつけるようにする。

Q：環境活動に参加しない人への意識付けをどうするか？

A：大変難しい問題である。例えば、誰を参加対象者にするかを考え、健康に結びつける、食に結びつける、安全に結びつける、などの工夫をして人集めをする方法がある。

単にチラシだけでは限界がある。やはり直接声を掛ける仕組みが必要です。

- ・次いで、こどもが参画する事例を2つ、参加者に実施してもらい、課題を把握してもらった。

一例：牛乳びんを使った3Rの実践

牛乳びんの肉厚を薄くしたびんは、軽くなっているが容量は変わらないことで資源節約＝リデュースに気付かせる

使い終わったびんを回収してカレットにして再生するリサイクル

使い終わったびんを回収して、きれいにして再度使うリユース

を世の中のびん循環型システムのポスターを使って、びんを動かしてみる実践

身近な素材で多面的に考えることが出来ることに気付いてもらった。

二例：小学生対象の実験事例：雨水と水道水をどうやって見分けるか？

実験器材として、無色透明な試料水2本、pH試験紙、pHパックテスト、標準色カード、二酸化炭素ポンペ、ウオーターチェッカー（塩素チェッカー）、水入りのペットボトル、プラスチックカップなどを用意しておいて、参加者が自由に使って見分ける実験をする。

参加者は、雨が酸性であることを知っているので、pH試験紙で調べるが、なかなか色変化を捉えるのは、難しい。

たくさんの実験器材があるが、どう使うか迷ってしまった。

小学生は、pHは習っていないことに気付くこととpHの概念を知らなくても水の種類を見分けることが出来ることを参加者と一緒になって、解き明かした。

研修結果

- ・講師のレベルでプログラムを考えてしまうが、大事なことは相手、参加者の目線と知識レベルを把握して、プログラム内容なり、実験を組み立てることが大事であることを気付いてもらった。
- ・身のまわりには、環境の学習をするのに、適しているものがたくさんあることにも気付いてもらった。
- ・参加者と講師・アドバイザーが、一つのテーブルで意見交換なり、話し合いが出来、気軽な雰囲気の中かで研修会が出来たと思う。
- ・最後に今年発行のKECA15周年誌とKECAニュース50号を提供して、KECAの実態を理解して頂き、KECAへの入会を勧めた。

以上